

医療情報研究室

室長 楠岡英雄

医療情報研究室では、医療情報やそれを取り扱うシステムに関する研究のみならず、医療情報システムや周辺の学術情報関連システムに蓄積される、広義の「医療情報」の取り扱いに関わる研究を行うとともに、医療への ICT 応用に関するソフト、ハード両面の研究を行っている。具体的には、整形外科領域におけるシミュレーションを用いた研究、放射線治療領域における 4 次元化画像誘導を用いた研究、病院において実稼働している病院情報統合システムを用いた研究、病院情報システム本体の機能拡張に関する独自の研究を実施する一方、治験・臨床試験や医療安全に関するシステムの検討、シミュレーションや統計などの情報科学の医療応用に関する研究を行っている。

平成 22 年度においては、平成 20 年度より継続している文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））による「人工股関節置換術インピンジメント関連合併症防止のための四次元シミュレーション研究」、国立病院機構共同臨床研究による「国立病院機構施設の新型インフルエンザ対策強化に関する調査研究」、平成 21 年度より継続している文部科学省科学研究費補助金（若手研究（A））による「骨盤部悪性腫瘍における 4 次元化画像誘導小線源治療の現実」が引き続き行われた。また、厚生労働省科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）による「治験に係る健康被害発生時の被験者保護に関する研究」を新たに実施した。

各研究の概要を以下に示す。

【2010 年度研究計画報告】

人工股関節置換術インピンジメント関連合併症防止のための四次元シミュレーション研究：三木秀宣

リアルタイム四次元動作解析システムを用い、立位、臥位、歩行のほか、大きな股関節運動を伴うインピンジメントのリスクを含むしゃがみこみ(Squatting)、椅子での起座動作、正座動作、立位での股関節伸展外旋動作などの動作について解析した。日常動作で必要となる可動域の設定として、われわれが過去に報告した術中ナビゲーションを用いて測定した臥位骨盤を基準 (PFPP) とした患者股関節可動域で十分である可能性が高いことを確認し、とくに骨盤後傾患者では可動域が伸展側にシフトするもののこの可動域からは逸脱しないことが判明した。これらの必要可動域のもとに人工関節パーツの至適設置角度に関するシミュレーションを行い、インピンジメントを防止するためにはかなり狭い許容範囲内に設置する必要があることが確認された。

これらの許容範囲に従来のマニュアル手術で設置可能かどうかについて従来手術とナビゲーション手術でのカップ設置精度を比較し、マニュアル手術ではカップ設置精度が悪く、インピンジメントを防ぐためにはナビゲーション等の補助的手段が必要であることを報告した。

さらに、近年使用可能となった大径骨頭ではこの許容範囲が広がる傾向があり、とくに、メタルオンメタルカップでは非常に広がることを示した。しかしながら、近年インピンジメント防止の観点以外に急峻なカップ外転角設置によるメタルイオン関連合併症が報告されており、その使用については否定的な意見が多くなっている。したがって、広く使用されているメタルオンポリエチレン、セラミックオンポリエチレン、セラミックオンセラミックの機種においては、現行の大径骨頭を使用したとしても、カップ設置の許容範囲は従来のマニュアル手術では実現不可能であり、やはりナビゲーション手術の必要性が再確認された。

国立病院機構施設の新型インフルエンザ対策強化に関する調査研究：楠岡英雄

本研究の目的は、国立病院機構における鳥インフルエンザ（H5N1）の受入について、近畿ブロックにおける個人の意識と施設の体制の現状を明らかにすることであった。無記名の自記式質問票をブロック内の各病院に配布した。回答は当院に返送してもらい、とりまとめて災害医療センターに返送し、分析した。本調査は平成 22 年 3 月に行われた。

近畿ブロックにおいても、他ブロックと同様、個人・組織共に新型インフルエンザへの関心は高かった。半数以上が、「新型インフルエンザが発生したら早めにプレパンデミックワクチンの接種を受けたい」、「新型インフルエンザ患者を受け入れる施設と受け入れない施設を地域で決めた方が良いと思う」と考えていた。また、「医療施設として新型インフルエンザが流行した場合の明確な対応方針がある」、「新型インフルエンザの対応マニュアルや基準の準備ができて」、「職員向けの研修会や勉強会など新型インフルエンザに関する教育の機会を持った」、「個人防護具は新型インフルエンザ流行に備えて備蓄している」、「新型インフルエンザの流行に備えて職員用に抗インフルエンザ薬の備蓄をしている」も 50%以上であった。また、施設長を対象にした調査では、7 割が「鳥インフルエンザ（H5N1）の流行が自施設に関係がある」と回答し、職員に対して新型インフルエンザの講義や研修を 7 割が行ったと回答した。8 割の施設に感染制御医もしくは感染管理認定看護師がおり、6 割が新型インフルエンザ対策のマニュアルがあると回答した。以上より、近畿ブロックにおける国立病院機構の医療機関における、医長・看護師長の意識、医療機関の施設長の意識、医療機関の準備の状況などが明らかとなった。これらの結果をもとに今後さらに必要な対策を明らかにしていくことが求められる。なお、本研究は、国立病院機構共同臨床研究「国立病院機構施設の新型インフルエンザ対策強化に関する調査研究」（研究代表者：国立病院機構災害医療センター、林茂樹）の分担研究として行った。

骨盤部悪性腫瘍における 4 次元画像誘導小線源治療の実現：吉田謙

カラードプラ機能を有する超音波診断を利用し、通常では治療できなかった深部骨盤リンパ節腫瘍に対して小線源治療を施行することに成功した。4 次元治療を導入するためのデータ収集としての症例（術後再発子宮癌、非切除新鮮子宮頸癌）のアプリケータの偏位の定量化を行い、解析した。また、4 次元治療を導入するための基礎データ収集としての症例（術後再発子宮癌）の 3 次元治療成績を解析した。

治験に係る健康被害発生時の被験者保護に関する研究—実施医療機関の対応に関する研究：楠岡英雄

本分担研究では、治験実施医療機関における健康被害に対する補償の実態、ならびに、補償に対する臨床研究コーディネータ（CRC）の意識について調査し、治験の現場における補償に関する課題の整理を行うことを目的とした。治験中核拠点病院等協議会参加の病院、独立行政法人国立病院機構に所属する病院と SMO、ならびにこれら機関に所属する CRC を対象にし、Web アンケート調査を行った。

医療機関・SMO からの有効回答数は 86 件であった。当該医療機関等が過去およそ 3 年間（平成 19 年 4 月～平成 22 年 10 月）に実施した症例数は、医療機関で 173.4 例（平均値）、SMO で 219.9 例であった。この期間に健康被害に対し補償を行った経験のある医療機関は 35 施設 122 件であり、SMO では 8 機関 10 件であった。補償については CRC が助言して補償を申し出た例が最も多く、次いで、医師が判断してのものが多かった。CRC からの回答は 769 件あり、半数以上が 3 年以上の

CRC 経験を有する者であった。しかし、補償の経験者は約 25%であった。半数以上が経験 3 年以上であるにもかかわらず、被験者への補償の説明については半数程度しか説明できているとは感じておらず、補償説明時の不安や抵抗感を持つ者が多かった。しかし、4 割が被験者は補償について理解できていると考えていた。また、補償事例の対応途中でのトラブル経験は補償経験者の 15.9%であった。対応に時間がかかる、被験者やその家族と依頼者との間に補償の考え方に差があるとトラブルになりやすいと考えられた。CRC は、健康被害発生時には、治験責任医師・分担医師が主となり、そこに CRC が協同して被験者に補償の説明をするのがよいと考えており、実際、そのように行われていた。しかし、補償についての説明ができていると考える者は 4 割以下であり、半数以上ができていないと感じていた。被験者または家族と治験依頼者が直接会って話をするか、医療機関・CRC が仲介するべきかについては 7 割以上が case by case と捉えていた。しかし、6 割は施設での補償内容・支払い金額について把握していなかった。以上より、今回の調査対象となった医療機関における実施症例数の総数は約 2 万例であり、そのうち、補償の発生した事例は 132 例であったことから、補償の発生率は約 0.6%と推定された。約 760 名の CRC から回答があったが、補償の経験者は約 25%であった。補償事例への対応等については医療機関での結果と CRC での結果はよく整合していた。CRC は補償の重要性についてはよく認識しているが、実際に経験することが少なく、また、補償の説明等についての技倆には十分な自信が持てていないと考えられた。なお、本研究は、厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「治験に係る健康被害発生時の被験者保護に関する研究」（研究代表者：浜松医科大学、渡邊裕司）の分担研究として行った。

【2010 年度研究発表業績】

A-0

Nakamura S, Kawano Y, Hase H, Hatta T, Nishimura S, Moroi M, Nakagawa S, Kasai T, Kusuoka H, Takeishi Y, Nakajima K, Momose M, Takehana K, Nanasato M, Yoda S, Nishina H, Matsumoto N, Nishimura T. Prognostic study of cardiac and renal events in Japanese patients with chronic kidney disease and cardiovascular risk using ECG-gated myocardial perfusion SPECT: J-ACCESS 3 study design. *Ther Apher Dial* 2010; 14(4):379-385

Yamasaki Y, Nakajima K, Kusuoka H, Izumi T, Kashiwagi A, Kawamori R, Shimamoto K, Yamada N, Nishimura T. Prognostic value of gated myocardial perfusion imaging for asymptomatic patients with type-2 diabetes: The J-ACCESS 2 investigation. *Diabetes Care* 2010; 33(11):2320-2326

Shinohara Y, Katayama Y, Uchiyama S, Yamaguchi T, Handa S, Matsuoka K, Ohashi Y, Tanahashi N, Yamamoto H, Genka C, Kitagawa Y, Kusuoka H, Nishimaru K, Tsushima M, Koretsune Y, Sawada T, Hamada C, for the CSPS 2 group. Cilostazol for prevention of secondary stroke (CSPS 2): an aspirin-controlled, double-blind, randomized non-inferiority trial. *Lancet Neurol* 2010; 9(10): 959-968

Nakamura N, Sugano N, Nishii T, Kakimoto A, Miki H: A comparison between robotic-assisted and manual implantation of cementless total hip arthroplasty. *Clin Orthop Relat Res.* 468(4):1072-1081, 2010 年 4 月

Sakai T, Ohzono K, Nishii T, Miki H, Takao M, Sugano N: A modular femoral neck and head system works well in cementless total hip replacement for patients with developmental dysplasia of the hip. J Bone Joint Surg Br. 92(6):770-776, 2010 年 6 月

Sakai T, Ohzono K, Nishii T, Miki H, Takao M, Sugano N. : Grafting with hydroxyapatite granules for defects of acetabular bone at revision total hip replacement: a minimum ten-year follow-up. J Bone Joint Surg Br. 92(9):1215-1221, 2010 年 9 月

Pezzotti G, Takahashi Y, Takamatsu S, Puppulin L, Nishii T, Miki H, Sugano N. : Non-destructively Differentiating the Roles of Creep, Wear and Oxidation in Long-Term In Vivo Exposed Polyethylene Cups. J Biomater Sci Polym Ed. [Epub ahead of print], 2010 年 11 月

Yoshida K, Yamazaki H, Takenaka T, Kotsuma T, Yoshida M, Furuya S, Tanaka E, Uegaki T, Kuriyama K, Matsumoto H, Yamada S, Ban C. A dose-volume analysis of magnetic resonance imaging-aided high-dose-rate image-based interstitial Brachytherapy for uterine cervical cancer. Int J Radiat Oncol Biol Phys 77:765-772,2010 Oct

Tanaka E, Yamazaki H, Yoshida K, Takenaka T, Masuda N, Kotsuma T, Yoshioka Y, Inoue T. Objective and Longitudinal Assessment of Dermatitis After Postoperative Accelerated Partial Breast Irradiation Using High-Dose-Rate Interstitial Brachytherapy in Patients With Breast Cancer Treated With Breast Conserving Therapy: Reduction of Moisture Deterioration by APBI Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2010 Oct

Yoshida K, Yamazaki H, Takenaka T, Tanaka E, Kotsuma T, Fujita Y, Masuda N, Kuriyama K, Yoshida M, Nishimura T. Objective assessment of dermatitis following post-operative radiotherapy in patients with breast cancer treated with breast-conserving treatment. Strahlenther Onkol. 2010 Nov; 186(11):621-9. Epub 2010 Nov 8.

Yamazaki H, Yoshida K, Kotsuma T, Yoshioka Y, Koizumi M, Furukawa S, Kakimoto N, Shimizutani K, Nishimura T. Age is not a limiting factor for brachytherapy for carcinoma of the node negative oral tongue in patients aged eighty or older. Radiation Oncology 2010 Dec, 5:116

Mikami M, Yoshida K, Takenaka T, Yamazaki H, Kotsuma T, Yoshida M, Aramoto K, Yamada S, Ban C, Tanaka E, Honda K. Daily computed tomography measurement of needle applicator displacement during high-dose-rate interstitial brachytherapy for previously untreated uterine cervical cancer. Brachytherapy. 2011 Jan 13.

A-2

三木秀宣 : THA の CupTargetAngle について Stryker Infos 5、p35-37、日本ストライカー、東京、2010 年 6 月

阿部祝子、西村治彦、三好亮、石垣恭子、稲田紘、中島健次、中村亜紀、石垣一司、水上ちえみ、山田泰子、楠岡英雄：フィールドワーク技法による病棟看護業務の調査に基づく電子カルテシステムの利用状況評価－電子カルテシステム導入前後の業務実態の比較から－、医療情報学 29(1): 3-18、2010 年

田村理、濱田英敏、三木秀宣、菅野伸彦：大腿骨過大前捻、過小前捻の股関節に対する人工股関節全置換術における大骨頭径インプラントの有用性 Hip Joint 36 : 306-309, 2010 年 10 月

三木秀宣、許太如、西原俊作、菅野伸彦：同じ三次元術前計画を用いた CT-based ナビゲーション使用、非使用 THA での術後アライメント比較 Hip Joint 36 : 144-146, 2010 年 10 月

深田光穂、村上正佳、酒井雄亮、北田誠、中村宣雄、津田晃佑、菅野伸彦、三木秀宣：人工股関節全置換術後患者に対する外転枕の必要性の検討 Hip Joint 36 : 91-92, 2010 年 10 月

許太如、三木秀宣：THA ナビゲーション ナビゲーションを用いた THA における大腿骨 stem 設置角度の精度 日本人工関節学会誌 40 : 210-211、2010 年 12 月

三木秀宣、田村理、許太如、濱田英敏、菅野伸彦：人工股関節におけるソケット設置角を科学する可動域シミュレーションからみた過小過大大腿骨前捻症例に対する大径骨頭インプラントの有用性 日本人工関節学会誌 40 : 16-17、2010 年 12 月

津田晃佑、三木秀宣、北田誠、西井孝、坂井孝司、高尾正樹、中村宣雄、服部麻木、鈴木直樹、米延策雄、菅野伸彦：人工股関節全置換術後の和式動作の 4 次元動作解析 日本コンピュータ外科学会誌 12、442-443、2010 年 11 月

川上秀夫、菅野伸彦、三木秀宣、米延策雄、服部麻木、鈴木直樹：膝関節モーメントと体幹動揺を評価する歩行解析システムの構築 日本コンピュータ外科学会誌 12、342-343、2010 年 11 月

田村理、三木秀宣、津田晃佑、西井孝、坂井孝司、高尾正樹、中村宣雄、服部麻木、鈴木直樹、米延策雄、菅野伸彦：4 次元動作解析を用いた人工股関節全置換術での骨盤傾斜の検討 日本コンピュータ外科学会誌 12、272-273、2010 年 11 月

末田聖倫、池永雅一、宮崎道彦、安井昌義、三嶋秀行、辻江正徳、大宮英泰、宮本敦史、平尾素宏、高見康二、藤谷和正、中森正二、吉田謙、辻仲利政：HIV 陽性の肛門管扁平上皮癌の 1 例. 癌と化学療法. 37:2656-2658,2010

後藤裕信、池永雅一、安井昌義、宮崎道彦、三嶋秀行、辻江正徳、宮本敦史、平尾素宏、藤谷和正、中森正二、吉田謙、辻仲利政：サルベージ手術を施行した放射線化学療法後の再発肛門扁平上皮癌の 1 例. 癌と化学療法 37:2659-2661,2010

A-4

楠岡英雄：内服薬処方せんの記載法—伝達ミスを防ぐために—、治療 92(増刊号):1394- 1399, 2010 年

A-5

楠岡英雄：国際共同治験実施における実施医療機関の課題に関する研究、厚生労働科学研究補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「国際共同治験を前提とした GCP 等の治験制度及びその運用のあり方に関する研究」平成 21 年度総括・分担研究報告書、pp.13-19、2010 年

A-6

楠岡英雄：製薬協政策セミナー「わが国の創薬基盤を考える～治験・臨床研究の活性化に向けて～」基調講演、Capsule No.88:4-10, 2010 年

吉田 謙：組織内照射～高線量率を中心に。映像情報メディカル 42:1056-1059,2010

B-2

Jinnai T, Sakamoto H, Yamane T, Suzuki M, Shiraki T, Minagoe S, Kusuoka H, Yokoyama H. Does early treatment with oral beta-blockers reduce in-hospital mortality in patients with acute myocardial infarction undergoing primary angioplasty? Annual Scientific Conference of American Heart Association, Chicago, U.S.A., 2010 年 11 月

Nakahara I, Nakamura N, Miki H, Takao M, Sakai T, Nishii T, Yoshikawa H, Sugano N. In vivo wear comparison of longevity and crossfire in THA. Annual Meeting of the American Academy of Orthopaedic Surgeons, San Diego, USA, 2011 年 2 月

Yamazaki H, Tanaka E, Yoshida K, Takenaka T. Objective and Longitudinal Assessment of Dermatitis following post-operative Accelerated Partial Breast Irradiation (APBI) using High Dose Rate Interstitial Brachytherapy (HDR-ISBT) in Patients with Breast Cancer treated with Breast Conserving Therapy. The 29 th European Society for Therapeutic Radiology and Oncology (ESTRO), September 2010, Barcelona, Spain

Yoshida K, Yamazaki H, Takenaka T, Kotsuma T, Yoshida M, Yamada S, Ban C, Aramoto K, Mikami M, Kuriyama K, Tanaka E. A dose-volume analysis of high-dose rate image-based interstitial brachytherapy for uterine cervical cancer. The 29 th European Society for Therapeutic Radiology and Oncology (ESTRO), September 2010, Barcelona, Spain

B-3

楠岡英雄：Who are the Desirable Persons with BME in Real Medical World?、パネルディスカッション「医工連携が目指すもの—同床異夢—」、第 49 回日本生体医工学会大会、大阪、2010 年 6 月

楠岡英雄：医療機器の適正評価に関する検討－医療技術産業戦略コンソーシアムの取り組み、日本学術会議生体医工学フォーラム 2011、東京、2011 年 3 月

B-4

石川澄、田中武志、池内実、楠岡英雄、奥原義保、梅里良正、津久間秀彦、岸真司、土屋文人、大原信、大道久：電子化が引き起こす有害事象－病院機能評価認定病院における調査－、第 14 回日本医療情報学会春季学術大会、高松、2010 年 5 月

山戸昌樹、乾礼興、宮崎宏一、宇都宮紫、谷口達典、濱野剛、中川彰人、北田博一、小出雅雄、佐々木典子、廣岡慶治、川口義廣、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄：急性心不全患者における容量負荷と腎機能との関係、第 58 回心臓病学会学術集会、東京、2010 年 9 月

谷口達典、三浦弘之、荒田夕佳、乾礼興、宮崎宏一、濱野剛、北田博一、小出雅雄、山戸昌樹、佐々木典子、廣岡慶治、川口義廣、是恒之宏、楠岡英雄、安村良男：急性心不全患者における腹部インピーダンス測定による貯留水分量の定量化の試み、第 58 回心臓病学会学術集会、東京、2010 年 9 月

田中武志、石川澄、池内実、津久間秀彦、楠岡英雄、梅里良正、岸真司、土屋文人、大原信、高橋静子、村上典子、菅原浩幸、伊藤悦子、大道久：医療情報システムにおける患者情報へのアクセス制限の実態について、日本医療・病院管理学会学術総会、広島、2010 年 10 月

津久間秀彦、石川澄、田中武志、池内実、楠岡英雄、梅里良正、岸真司、土屋文人、大原信、高橋静子、村上典子、菅原浩幸、伊藤悦子、大道久：医療記録の電子化は有害事象を少なくするか？、日本医療・病院管理学会学術総会、広島、2010 年 10 月

田中武志、池内実、津久間秀彦、楠岡英雄、梅里良正、岸真司、土屋文人、大原信、高橋静子、村上典子、大道久、石川澄：医療情報システムの管理・教育体制と有害事象との相関、第 11 回日本医療情報学会学術集会、浜松、2010 年 11 月

岡垣篤彦、東堂龍平、是恒之宏、中島伸、和田晃、楠岡英雄：電子カルテの記載内容の質の評価の試み、第 11 回日本医療情報学会学術集会、浜松、2010 年 11 月

坂本泰一、森下典子、石山薫、小野恭子、木島かおり、北川智子、柚本育世、樋口早映子、多和昭雄、是恒之宏、楠岡英雄：IRB での安全性情報の審議改善への取り組み、第 31 回日本臨床薬理学会年会、京都、2010 年 12 月

Yokoyama H, Kada A, Yonezawa K, Suzuki M, Nakamura Y, Matsubara H, Fukuda N, Kusuoka H. Prediction of the Risk of In-hospital Mortality in Patients with Acute Myocardial Infarction from Multicenter Registry Database in Japan. 第 75 回日本循環器学会学術集会、横浜、2011 年 3 月

Yokoyama H, Kada A, Yonezawa K, Suzuki M, Nakamura Y, Matsubara H, Fukuda N, Kusuoka H. Women, High Age and Onset During Evening is Strongly Associated with In-hospital Mortality in Patients with Acute Myocardial Infarction. 第75回日本循環器学会学術集会、横浜、2011年3月

三木秀宣:THAにおけるCT-basedナビゲーションの設置精度の検討 第4回日本CAOS研究会、東京、2010年4月

三木秀宣:THAにおけるCT-basedナビゲーションのインプラント設置精度の検討 第37回日本股関節学会、福岡、2010年10月

許太如、三木秀宣:大腿骨側にProfemur Rを用いたrevisionTHA症例の短期成績 第37回日本股関節学会、福岡、2010年10月

B-5

楠岡英雄:今後の国際共同治験、ACRP-Japan/CRNF 福岡国際共同治験セミナー、福岡、2010年5月

楠岡英雄:今後の国際共同治験、ACRP-Japan 大阪国際共同治験セミナー、大阪、2010年7月

楠岡英雄:臨床研究の倫理指針に関して、第26回Brain Function Imaging Conference、神戸、2010年9月

楠岡英雄:今後の国際共同治験、ACRP-Japan 東京国際共同治験セミナー、東京、2010年11月

武中正、吉田謙、立入誠司、荒本和正、山崎秀哉、古谷誠一、田中英一:子宮頸癌に対する画像誘導腔内照射治療計画の検討 第66回日本放射線技術学会総会学術大会 横浜 2010年4月

三宅俊輔、岩井康典、山田洋司、武中正、本多数弥、吉田謙、山崎秀哉:ガラス線量計を用いた線量評価(線量計算アルゴリズムの検証) 第66回日本放射線技術学会総会学術大会 横浜 2010年4月

武中正、吉田謙、立入誠司、吉田岑雄、山崎秀哉、古谷誠一、三宅俊輔、荒本和正、吉村泰司、本多数弥、伴千秋、田中英一:子宮頸癌に対する画像誘導腔内照射治療計画

日本放射線腫瘍学会 若手のための小線源治療部会教育セミナー&第12回研究会 東京 2010年5月

吉田謙、田中英一、吉田岑雄、武中正、山村順、田中麻紀子、小川正美、徳田由紀子、竹田雅司、児玉良典、眞能正幸、増田慎三 35歳以上の乳房温存術後組織内照射 第18回日本乳癌学会学術総会 札幌 2010年6月

小川正美、増田慎三、山村順、田中麻紀子、荻田真子、児玉良典、竹田雅司、徳田由紀子、吉田謙、眞能正幸、中森正二、辻仲利政 センチネルリンパ節に micrometastasis を認めた際、郭清すべきか 第 18 回日本乳癌学会学術総会 札幌 2010 年 6 月

吉田謙：当院における組織内照射の工夫.第 12 回日本放射線腫瘍学会小線源治療部会、2010 年 6 月 東京

武中正、吉田謙、立入誠司、吉田岑雄、三宅俊輔、山崎秀哉、古谷誠一、荒本和正、吉村泰司、本多数哉、伴千秋、田中英一：子宮頸癌における画像誘導腔内照射. 第 12 回日本放射線腫瘍学会小線源治療部会、2010 年 6 月 東京

大谷侑輝、能勢隆之、関根広、築山巖、吉田謙、余田栄作、上原智、立入誠司、小口正彦、土器屋卓志：組織内照射を使った加速乳房部分照射法における治療計画の再現性-予行演習について. 第 12 回日本放射線腫瘍学会小線源治療部会、2010 年 6 月 東京

三上麻里、武中正、吉村泰司、中村和信、本多数弥、吉田謙、吉田岑雄、田中英一：新鮮子宮頸癌高線量率組織内照射におけるフレキシブルニードル偏位の経時的変化. 第 19 回国立病院療養所近畿放射線技師会学術大会 2010 年 10 月 大阪

三上麻里、吉田謙、武中正、吉田岑雄、中村和信、本多数弥、田中英一：子宮頸癌高線量率組織内照射におけるフレキシブルニードル偏位に伴う線量分布の評価 日本放射線腫瘍学会第 23 回学術大会 千葉 2010 年 10 月

吉田謙、能勢隆之、築山巖、上原智、関根広、余田栄作、松村泰成、大谷侑輝、土器屋卓志、小口正彦：組織内照射による加速乳房部分照射（APBI）の多施設臨床試験における治療技術の均てん化の試み. 第 23 回日本放射線腫瘍学会学術大会 2010 年 11 月 浦安

吉田謙、武中正、三上麻里、吉田岑雄、古妻理之、山崎秀哉、田中英一：術後局所再発子宮癌に対する高線量率組織内照射におけるアプリケーションの偏位の検討. 第 23 回日本放射線腫瘍学会学術大会 2010 年 11 月 浦安

古妻理之、吉田謙、山崎秀哉、吉田岑雄、武中正、田中英一：術後再発子宮癌に対する高線量率組織内照射. 第 23 回日本放射線腫瘍学会学術大会 2010 年 11 月 浦安

三上麻里、吉田謙、武中正、吉田岑雄、吉村泰司、中村和信、本多数弥、田中英一：新鮮子宮頸癌高線量率組織内照射におけるニードルアプリケーション偏位に伴う線量分布の経時的変化 第 64 回国立病院総合医学会 博多 2010 年 11 月

武中正、吉田謙、立入誠司、吉田岑雄、三宅俊輔、山崎秀哉、古谷誠一、荒本和正、田中英一：子宮頸癌に対する画像誘導腔内照射治療計画の検討 日本放射線腫瘍学会第 23 回学術大会 浦安市 2010 年 11 月

三宅俊輔、山田洋司、三上麻里、梶原敏郎、村田伸一、岩井康典、武中正、吉村泰司、中村和信、本多数弥、吉田謙、田中英一：子宮内照射における金属アプリケーションと非金属アプリケーションの出力線量の検証 第 64 回国立病院総合医学会 福岡 2010 年 11 月

B-6

谷口達典、乾礼興、宮崎宏一、濱野剛、宇都宮紫、中川彰人、北田博一、小出雅雄、山戸昌樹、佐々木典子、廣岡慶治、川口義廣、楠岡英雄、安村良男、是恒之宏：高度低心機能、腎機能低下を有する両側腎動脈狭窄症に対して staged PTRR が著効した一例、第 109 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2010 年 6 月

濱野剛、谷口達典、北田博一、小出雅雄、山戸昌樹、佐々木典子、廣岡慶治、是恒之宏、楠岡英雄、安村良男：たこつぼ型心筋症の発症により閉塞性肥大型心筋症が顕在化した 1 症例、第 191 回日本内科学会近畿地方会、京都、2010 年 6 月

乾礼興、三浦弘之、宮崎宏一、谷口達典、濱野剛、小出雅雄、山戸昌樹、佐々木典子、廣岡慶治、楠岡英雄、安村良男、是恒之宏：レートコントロールにて著名な左室機能改善を認めた頻脈誘発性心筋症の一例、第 110 回日本循環器学会近畿地方会、京都、2010 年 11 月

坂口大起、三浦弘之、乾礼興、宮崎宏一、濱野剛、谷口達典、小出雅雄、山戸昌樹、佐々木典子、廣岡慶治、川口義廣、楠岡英雄、安村良男、是恒之宏：乳癌に対してパクリタキセル投与中に突然の心室細動を発症した一例、第 110 回日本循環器学会近畿地方会、京都、2010 年 11 月

宮崎宏一、三浦弘之、乾礼興、谷口達典、濱野剛、小出雅雄、山戸昌樹、佐々木典子、廣岡慶治、楠岡英雄、安村良男、是恒之宏：血液透析導入後にカルベジロール中止にても顕著な左室収縮能の改善を維持している一症例、第 110 回日本循環器学会近畿地方会、京都、2010 年 11 月

三木秀宣：コンピュータ支援技術を応用した THA 後術後脱臼の予防と治療 第 4 回術後合併症予防研究会、千葉、2010 年 7 月

三木秀宣：脱臼と摺動面素材と骨頭径 第 1 回次世代人工股関節摺動面研究会、大阪、2011 年 1 月

三木秀宣：脱臼防止におけるカップ設置角の重要性と大径骨頭カップの効果シミュレーション Stryker Bearing Seminar、東京、2010 年 5 月

三木秀宣：脱臼に関する動作解析からみた インプラント設置角の重要性と 大径骨頭インプラントの与える効果 Stryker Bearing Seminar、大阪、2010 年 7 月

三上麻里、吉田謙、武中正、吉田岑雄、吉村泰司、中村和信、本多数弥、田中英一：新鮮子宮頸癌高線量率組織内照射におけるニードルアプリケーション偏位の経時的変化 第 19 回国立病院療養所近畿放射線技師会学術大会 大阪 2010 年 10 月

三宅俊輔、山田洋司、武中正、梶原敏郎、上田麻里、村田伸一、岩井康典、本多数弥、吉田謙、田中英一、山崎秀哉：子宮腔内照射用アプリケーションからの出力線量の検証 金属製と非金属製の比較。第 296 回日本医学放射線学会関西地方会、大阪 2010 年 11 月

水谷麻紀子 増田慎三 山村 順 埜中正博 苅田真子 吉田 謙 田中英一 徳田由紀子 児玉良典 中森正二 辻仲利政 Lapatinib+Capecitabine 療法で脳転移の病勢を抑えることができた HER2 陽性乳癌の一例 第 8 回日本乳癌学会近畿地方会 京都 2010 年 12 月

三上麻里、吉田謙、山崎秀哉、吉田岑雄、武中正、三宅俊輔、田中英一：組織内刺入前にバーチャル刺入計画を行った転移性骨盤リンパ節腫瘍の一例。第 297 回日本医学放射線学会関西地方会、大阪 2011 年 2 月

B-7

武中正、吉田謙：大阪医療センターの経験 厚生労働省がん研究助成金「17-10 がんの小線源放射線治療の評価と品質管理に関する研究」乳がん APBI グループ第 3 回 APBI 技術講習 東京 2011 年 3 月

B-8

楠岡英雄：治験実施医療機関の長としての役割と CRC への期待、平成 22 年度初級者臨床研究コーディネータ養成研修、東京、2010 年 8 月

楠岡英雄：治験の現状と将来、大阪医科大学付属病院臨床治験センター開設 10 周年記念講演、大阪、2010 年 10 月

楠岡英雄：医療安全に果たす薬剤師の役割について－内服処方箋の記載のあり方に関する検討会結果報告を踏まえて－、近畿国立病院薬剤師会講演会、大阪、2010 年 10 月

楠岡英雄：患者安全について－医療機能評価機構認定病院患者安全推進協議会 IT 化・情報機器部会の取組から、保健医療福祉情報システム工業会標準化推進部会業務報告会、東京、2010 年 10 月

楠岡英雄：治験・臨床研究倫理委員会と委員の役割、平成 22 年度治験及び臨床研究倫理審査委員に関する研修、東京、2010 年 12 月

楠岡英雄：医薬品・医療機器開発における治験の役割と現状・問題点、近畿バイオインダストリ振興会議年末バイオセミナー、大阪、2010 年 12 月

楠岡英雄：治験の現状と将来、日生病院治験管理室特別講演、大阪、2011 年 1 月

楠岡英雄：わが国における治験推進の展望、彩都産学官連携シンポジウム、大阪、2011 年 1 月

楠岡英雄：Issues on Global Study form Viewpoint of Investigational Site and ACRP-Japan、R&D Head Club、大阪、2011 年 2 月

楠岡英雄：医療機器の適正評価、医療技術産業戦略コンソーシアム（METIS）第4回医療テクノロジー推進会議、東京、2011年3月

吉田謙：頭頸部癌放射線治療 治療経験、第6回マイクロセレクトロン HDR 研究会、東京 2010年12月

吉田謙：小線源治療、文部科学省がんプロフェッショナル養成プラン、京都 2010年10月

吉田謙：歩行可能な HDR（高線量率組織内照射）。北摂泌尿器科研究会、大阪 2011年2月

B-9

楠岡英雄：なぜ使えない？よいくすり ～治験のあり方を考える～、NHK 教育、2011年1月